

武藏野市における地域リハビリテーションの歩み

平成 23 年度まで

●第四期長期計画・調整計画（平成20～24年）

健康・福祉分野の「安心して暮らせるまちづくり」の中で、『地域リハビリテーションの充実』という項目が設けられ、地域リハビリテーションの理念が示され、その理念にもとづいて連携体制の強化を図ることとしました。

具体的な取り組み

平成20年度

地域連携パス

誰もが速やかに適切な治療を受けるために、急性期病院から地域への移行を速やかに行う必要があります。さらに退院後の療養生活まで、複数の医療機関が一つの治療方針で連携して診療するために導入されたものです。本市では、ご本人とご家族が安定した在宅生活を送るための情報シートとして、医療機関・行政・在宅支援者が協働して、まずは脳卒中についての地域連携パスを作成しました。これをきっかけに退院時の支援に医療機関との連携体制が進んできました。

平成21年度

就学支援シート

就学前のお子さんに対する保護者の思い、保育園・幼稚園等の日常生活におけるお子さんの情報を小学校に引き継ぐ情報ツールです。本市では、シートの作成段階で、母子保健・障害・子ども・教育の担当部署が、協働して支援の在り方を考える中で、合同で作成しました。



平成23年度

もの忘れ相談シート

今後、少子高齢化が急激に進むとともに、認知症の方も増える見込みであり、誰もが当事者または介護者となる可能性があります。認知症になつても安心して地域で暮らすための支援の一つとして、医療機関と地域の相談機関が連携して認知症高齢者とご家族を支える取り組みを進めています。その中の一つの方法として医療機関と地域の相談機関が情報を共有しながら支援していくためのシートを作成しました。



平成 24 年度から

●第五期長期計画（平成24～33年度）

『地域リハビリテーションの推進』を、長期計画における7つの重点施策の一番目に取り上げ、「すべての市民が、生涯を通して住み慣れた地域で安心して過ごすことができるよう、地域生活に関わる人や組織が、保健・医療・福祉・教育などの分野を超えて連携し、継続的で体系的な支援を行う仕組みづくりに最優先で取り組む」とこととしました。

◆国際的な流れ (Community Based Rehabilitation-CBR)

CBR(Community Based Rehabilitation) = 「地域に根ざしたリハビリテーション」というプログラムが1970年代後半より世界保健機構(WHO)などによって考えられ、各国に広まっています。CBRは様々な形で実施され、変化・成長しているプログラムです。2010年には世界保健機構を含む4つの国際機関によって「CBR Guidelines」が作成されました。その中で特に強調されているのが、「障害のある人々や家族、さらにはコミュニティが、このプログラムにおける様々な決定を行い発展させていく過程に参加することによって、自身の力を強くするよう働きかける」ということです。

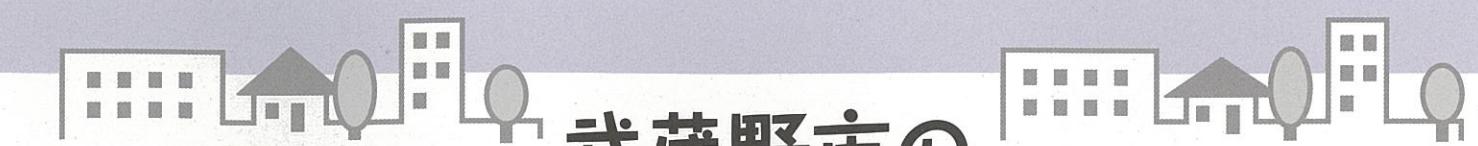
武藏野市においても、支援を必要とする方自身やその家族、地域と一緒に「地域リハビリテーション」を発展させていくような仕組みや環境を整えてまいります。



このリーフレットおよび
地域リハビリテーションについての
お問い合わせ

武藏野市健康福祉部高齢者支援課地域支援係

T 180-8777 武藏野市緑町 2-2-28 TEL : 0422-60-1941 FAX : 0422-51-9218
e-mail: SEC-KOUREI@city.musashino.lg.jp



武藏野市の 地域リハビリテーション 誰もが安心して生活するために

「地域リハビリテーション」って何？



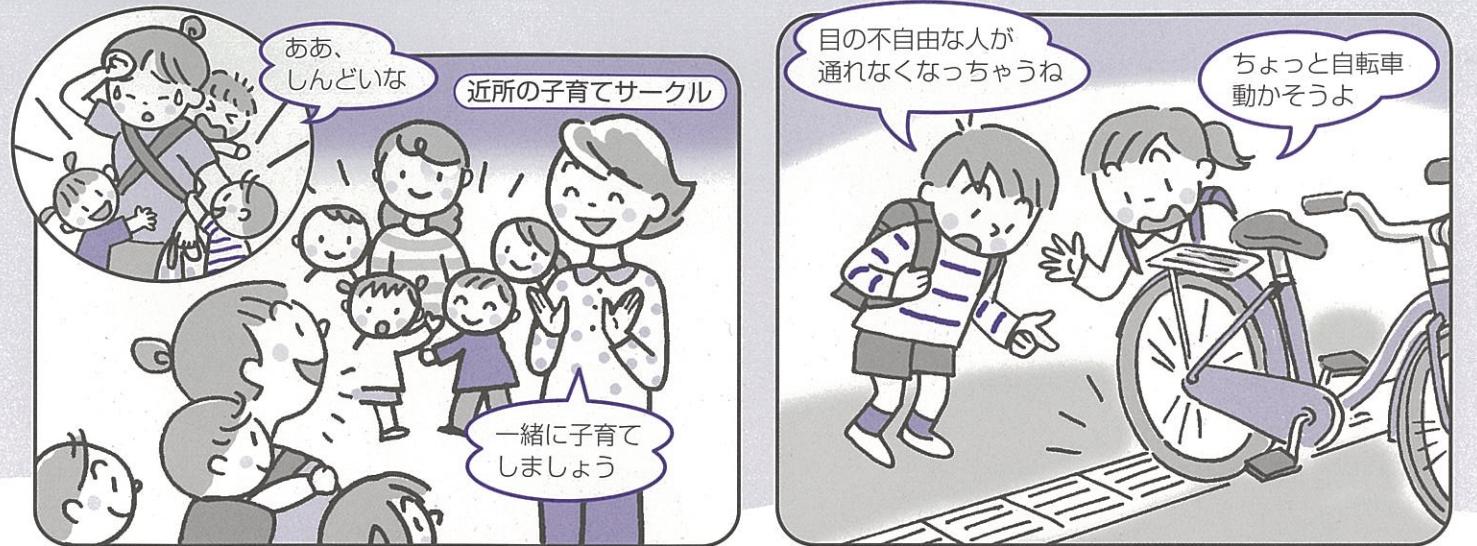
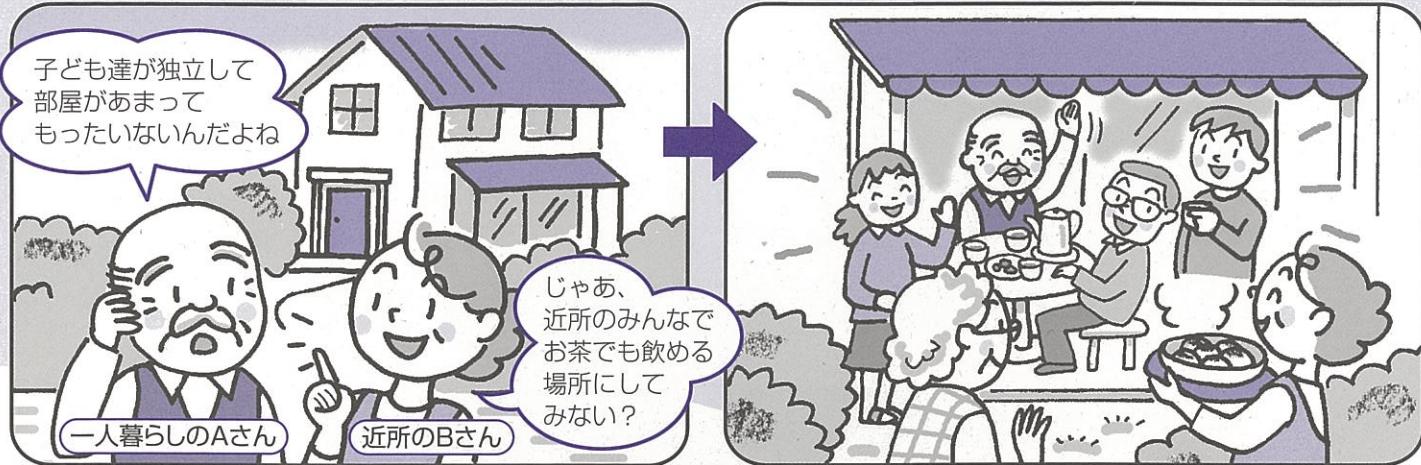
すべての市民が、
その年齢や状態に関わらず、
住み慣れた地域で、本人の意思に基づいて
安心して生活が続けられるよう、
保健・医療・福祉・教育など、
地域生活に関わるあらゆる組織、人が連携した
継続的、体系的な支援

武藏野市健康福祉総合計画より
(平成 24 年 3 月)

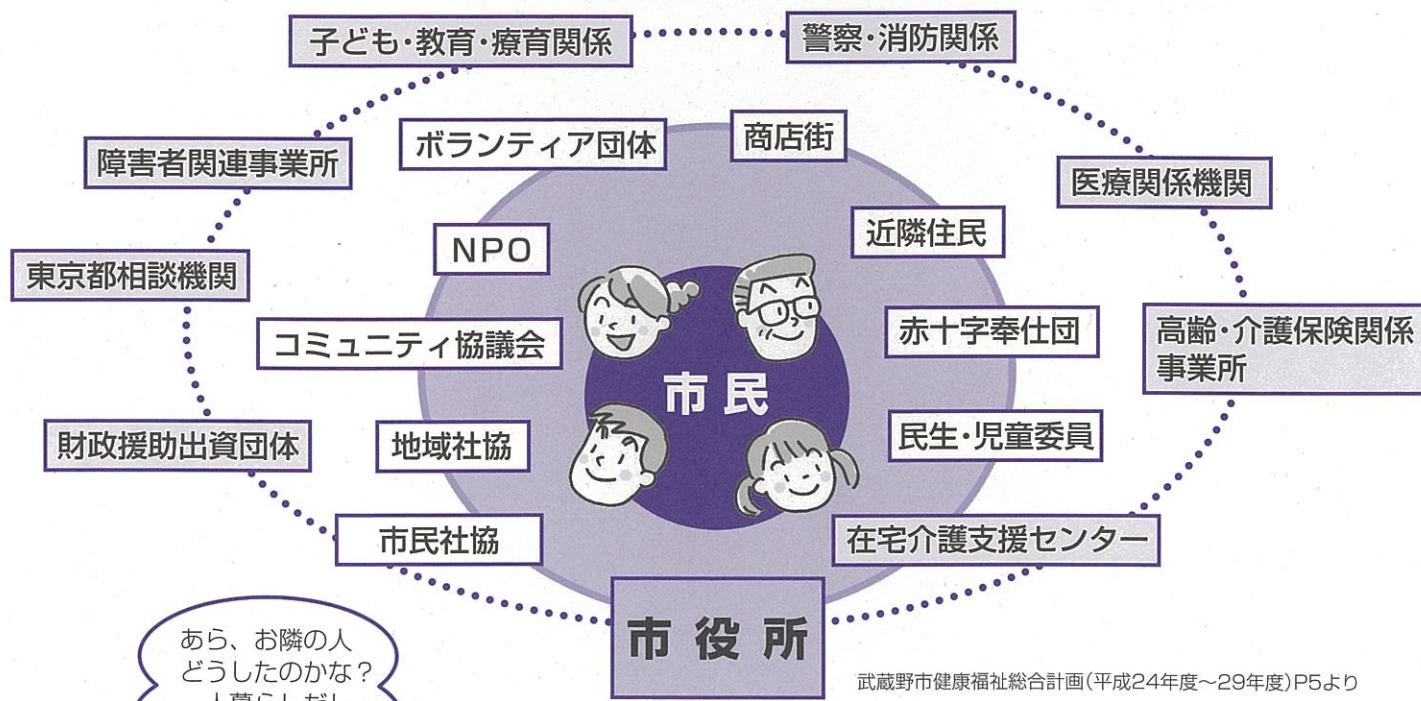


武藏野市
平成24年7月

地域リハビリテーションは、このような地域の皆様の活動をつなげ、広げていきます。



地域リハビリテーションを進める連携のイメージ



地域リハビリテーション推進協議会のしくみ

地域リハビリテーションの理念にもとづき、市民の皆様一人ひとりが安心して健康的に暮らし、保健・福祉・医療・教育など様々な分野のサービスや地域の活動による支援を一体的に受けられる体制を整えるための検討や調整を行います。

地域リハビリテーション推進協議会

武蔵野市の地域リハビリテーション推進における進行管理

- 【構成】
- ・医師会
 - ・薬剤師会
 - ・地域自立支援協議会
 - ・武蔵野市民社会福祉協議会・行政
 - ・歯科医師会
 - ・武蔵野赤十字病院
 - ・地域包括支援センター運営協議会

※分野の広がりに応じて、各分野の代表者を加えます。

さらに、具体的な課題を検討する分野別の会議を設置します。平成24年度は、「在宅支援連絡会」を設置し、自宅で利用する保健・医療・福祉分野のサービスをより円滑に連携させるための検討を始めました。また、個別の課題に応じて分野を横断した検討チームも設置します。

分野別会議

課題ごとに開催

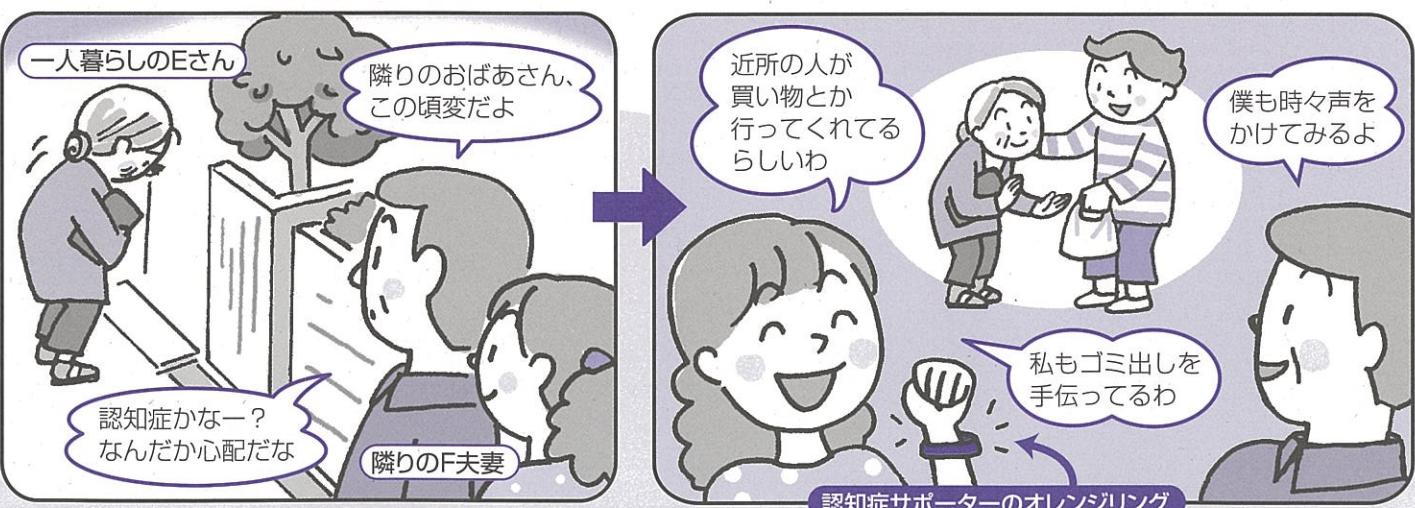
在宅支援連絡会
実務者同士の協議により、保健・医療・福祉の連携をはかる。
(平成24年4月発足)

福祉・教育・防災・まちづくりなど、その他、様々な分野に広げ、順次設置していきます。



各分野での具体的な検討・課題解決

分野を超えた調整機能



個人や組織のそれぞれの意識の持ち方で地域を変えていくことができます。それが地域リハビリテーションです。